

一日一日を大切に
読谷中学校 二年六組 片野坂 亜美

私たちの当たり前の生活はほんらかの原因
で、突然くずれます。

三年前の冬、私たちの当たり前の生活は新
型コロナウイルスの影響でくずれてしまいま
した。感染対策のため毎日マスクをして過ご
さなければいけなくなる、外出や部活の活動
時間に制限が出る、学校が休校になる。日々
の日常が日常ではなくなりました。日本全国

で命を守るためにたくさん制限がで、その
前までのごく普通の生活がくずれました。
私はこの時、毎日友達に会えたり、家族と一
緒に外出したりする当たり前の生活の大切さ、
幸せに気付くことかできました。

七十七年前にも、沖縄では当たり前の生活
かうばわれるという悲劇がありました。私は
一年生のときに行われた平和学習で講演をし
てくださった比嘉涼子さんから上原しんすけ
さんのお話を聞きました。しんすけさんは、

集団自決が起こったチビチリがマから、生き残っていて、知人同士が殺し合ったところを実際に見たそうです。戦争は、生きていても苦しい思いをさせてしまいます。戦死や自決をした人たちは未来をうばわれ、生きる権利さえもうしなされた命を数多く生み出したといえます。

また、去年の二月頃に読谷中学校でおこなわれたピースフエスタの平和集会で演劇部の生徒と平和人権委員の生徒が行った演劇では

最後の場面で「戦争では夢をあきらめなければいけない」という言葉が心に残りました。それは、今現在での日本ではありえない状況です。

ロシアとウクライナが戦争をはじめる前までは、平和学習に真剣に取り組んではいても、戦争の悲惨さを語り継いでいけば戦争は二度と起こらないものであるという甘い考えをしていました。しかし、今の地球では戦争が起こっています。前に、ロシアとウクライナの

ことについてのテレビ番組や新聞記事を見ま
 した。そのとき、七十七年前の沖縄で起こっ
 た地上戦と同じように、若者が夢をあきらめ
 たり、現地の人は警報音が鳴っても、もう慣
 れたことだと言って現代にもそんなことがお
 きているんだととてもおどろきました。です
 か、これまでも世界では、アフガニスタニ
 紛争やシリア内戦、リビア内戦といった長く
 続く数多くの紛争や内戦があります。このよ
 うに世界中で起こっているさまざま戦争を

知り、戦争は巻き込まれた全ての人を不幸に
 するものだということを再認識しました。そ
 して、私たちが大人になつてから戦争が起こ
 らないように行動しても遅いと実感すること
 ができました。

私たちは、今、当たり前前の生活のもろさを
 知っています。だからこそ、一日一日を大切
 にして、学校に行ったり、兄弟や親とけんか
 したりできる日常にも感謝したいと思いまし
 た。また、みんなが笑顔で当たり前前の日々を

過
 ぎせるように、平和について考えたり、ル
 ールやマナーを守って生活したりといっただ自
 分自身にできる小さな事から行動をして、当
 たり前の生活を長く続けられるようにしたいで
 す。